



### 添え書き

五寺七で、け初違、上とでの名しき  
 間弥成たしお。とた誠活お今の代て。  
 日阿平しま、た活し勸きにも様名した  
 五。、まいにし生ま、活誠て陀ごさし  
 らたがしぎ人まのいれれ。一弥のめま  
 かし回たご女れ常ざつたたと阿人勤き  
 日ま前いで善さ日ごに持しにら上て頂  
 一し、筵伝子行んはむをま私が然めて  
 一たは開相男満さで進味き。な法初せ  
 月いてを重善事皆れが興頂す才祖をさ  
 一筵し伝五の無の疲ちにけま浅元子を  
 一開ま相の名買者おに話受い、佛験  
 一をし重り5全受で日おおざはた灯經  
 一を伝た五ぶ6、新験と、ご伝ま伝ご  
 一重相いに年勢き、体々等れう相、のき  
 一本重と年6総頂はご段人さと重代て尊

と専き、しい五以前。暮も残年と  
 会は頂とて、たおお年。る幸  
 伝りて間け回またて本た来多  
 相まけ人つ今。つれ。し、ご  
 重つ、に。方なさすまたのす  
 五、にと身すおにかまりま方ま  
 。隨身もをまたけ活げい、様げ  
 た神くの礎いっ受に上まに皆上  
 しのし光基ざなお活じて事つし空  
 まえ正みのごにを生存つ無つ申法  
 い教を、活でけ等実とまもじ願井  
 ぎのえの生会受伝をいせ年念祈藤  
 ご宗教まい法お相えたし本とご  
 う土のさし、を重教きおののを職  
 難浄仏陀正く伝五み頂とか事勝住  
 り、念弥のだ相、のし々ず無健  
 有は修阿てた重にこら段わもご記



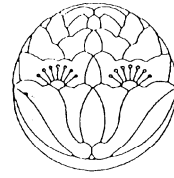
## 阿弥陀寺だより

平成23年 仏歴2554年

ただ一向に念仏すべし

お寺からのお知らせ(仏名会号)

# 白菊



### 浄土宗

★発行日・平成23年12月10日★第100号★発行・ 光照山 阿弥陀寺 (Tel.0744-27-3278 Fax40-7600)

#### 食作法

○食前のことば  
合掌

われここに食をうく  
つつしみて  
天地の恵を思い  
その労を謝し奉る  
十念  
いただきます

○食後のことば  
合掌

われ食を終りて  
心豊に力身に満つ  
おのがつとめに  
誓って御恩に  
むくい奉らん  
十念  
御馳走さま



受講料無料  
 始めました  
 練習会  
 12月13日  
 午後2時から  
 阿弥陀寺  
 詳しくは、TEL0744-27-3278までお気軽にご参加下さい



仏名会法要は、  
 12月14日(水)に  
 お勤めいたします。  
 ※練は、本文、日程表をご覧ください

- 境内新区画墓地分譲中 新区画墓地好評分譲中  
詳しくはホームページ [光照山阿弥陀寺検索 http://kamidaji.com](http://kamidaji.com)
- 納骨堂 ☆納骨は、随時受け付けています。詳しくは TEL0744-27-3278に。

## 見えない恐怖

浄土宗新聞より

平成23年も、はや師走。今年は、日本にとり、また浄土宗にとっても忘れがたい年だった▼東日本大震災の影響で総本山知恩院では八百年大遠忌の諸行事を半年延期。辛い思いのなかで、まずは無事成満となった。関係者一同ほっとしていることだろう▼ふり返えれば、今年はこの被害が多かった。3月の東日本大震災の大津波(9月初旬)、台風12号の大雨がもたらした紀伊半島での大土石流。追い打ちをかけ全上を蹂躞した15号の大洪水。日本ばかりでなく、二月にはタイで大水害が報告された▼今年、私たちは目に見えないものにも襲われた。原発事故による放射能だ。線量という聞き慣れない言葉に敏感となった。見えないものへの恐怖は、見えないがゆえいや増し、私たちをおびえさせる▼仏教では、人間に備わる感覚器官として眼・耳・鼻・舌・身の五根と、第六根に知覚である意識を説く。意は、仏教辞書には「思量する働き、心の考える方面」とある。意は独自の働きもするが、前の五感と密接に働いたとき意識として作用し行動判断が生じる。そのとき煩惱が生じると仏陀は喚起する▼しかし五感の生じていないところでは、意の判断がまどう。見えないものへの恐怖とは、判断のまどいにあるのでは。それが風評被害をよんでいる側面もあるだろう▼「束縛の原因は対象ではない。原因は対象に対する束縛である」(楞伽經)。束縛とは、一つのものに集中して見えずなくなり、没頭することだ▼今夏の京都五山送り火で、津波で倒れた陸前高田市の松を薪に使うことに議論がおきた。福島産の農作物が、科学的根拠もなしに避けられてもいる。被災地のものというだけでまどいが生じた結果ではないか。「放射能」とか「フクシマ」という記号となった言語を対象として、それに束縛されている私たちがいる。

明るく・正しく・伸よく

このほど刊行された平成二十二年度『文部科学白書』(文部科学省編)に極めて異例ながら、中学校卒業生代表の言葉が全文掲載されている。「全国に感動を与えた気仙沼市立階上はしかみ中学校の卒業式における卒業生代表梶原裕太君の答辞」だ。一読、共感かつ敬服す。《本日は未曾有の大震災の傷も癒えないさなか、私たちのために卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。ちょうど十日前の三月十二日。春を思わせる暖かな日でした。私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を、まなびやに希望に胸を膨らませ、通い慣れたこの学舎を五十七名揃って巣立つはずでした。前日の十一日。一足早く渡された思い出のたくさん詰まったアルバムを開き十数時間後の卒業式に思いを馳せた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こることも知らずに。階上中学校といえは「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はいくらにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていききました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。

### 天を恨まず運命に耐え助け合って生きていく

時計の針は十四時四十六分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。私たちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、この地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごしてください。先生方、親身のご指導、ありがとうございます。先生方が、いかに私たちを思ってくださっていたか、今になってよく分かります。地域の皆さん、これまで様々なご支援をいただき、ありがとうございます。これからもよろしくお願いたします。お父さん、お母さん、家族の皆さん、これから私たちが歩んでいく姿を見守っていてください。必ず、よき社会人になります。私は、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。最後に、本当に、本当に、ありがとうございます。《(本年三月二十二日)》